

財団通信

財団通信 第63号 平成27年10月17日(土)発行

発行所
〒832-0814
福岡県柳川市三橋町垂見 18-2
公益財団法人 生涯学習振興財団
TEL 0944-72-5452
FAX 0944-72-1803
発行人 理事長：沖水佳史
編集人 事務局長：井上正明

平成二十七年 第26回筑南ジュニア美術展

応募総数 6,041点

【特別理事長賞】(福岡県教育委員会賞・西日本新聞社賞)

個人部門

絵画部門

- ◎高尾麗美(開保育園)
- ◎持丸竜輝(西国分小1年)
- ◎出口絵麻(筑後小5年)
- ◎よこみぞえり(上妻小1年)
- ◎浅川けい太郎(筑後小4年)
- ◎牛島隆紀(八女市立南中3年)

【特別学校賞】

◎藤吉小学校

◎福島小学校

◎西国分小学校

◎上陽北浜学園中学校

【奨励賞】

◎西国分小学校

◎上陽北浜学園中学校

習字部門

- ◎よこみぞえり(上妻小1年)
- ◎浅川けい太郎(筑後小4年)
- ◎牛島隆紀(八女市立南中3年)

平成二十七年 第26回筑南ジュニア美術展(後援福岡県教育委員会、西日本新聞社)は、去る9月10日に応募を締め切り福岡県筑後地区を中心に、応募団体111校から6,041点の応募(習字 3,738点、絵画2,303点)があった。去る9月12日に当財団生涯学習会館で、応募された6,041点の習字・絵画作品の審査を、絵画部門は、江崎文字(財団講師)、陶山高義(八女市教育研究所所長)、山浦耕治(福岡教育大学附属小学校元副校長、習字部門は、下川善道(下妻小学校校長)、松尾理恵子(大牟田北高等学校講師)の各先生方合計5名で厳正な審査がおこなわれた。また、審査の補助として、県立ありあけ新世高校の美術部の生徒さん5名に協力をいただいた。

審査の結果は、右記のとおりです。また、今年の団体賞は、多くの優れた作品を応募した藤吉小学校に特別学校賞、学校賞に福島小学校と岡山小学校、奨励賞に西国分小学校と上陽北浜学園中学校が選ばれた。筑南ジュニア美術展は、「子供たちに図画を書くことや習字を学ぶことを通して、美を表現する技術・能力を高め、併せて生涯学習の振興を図る」ことで、青少年の健全育成への貢献を図る目的ではじめられ、今年で26回を迎えている。入賞は、特別理事長賞(併せて福岡県教育委員会賞・西日本新聞社賞も受賞)のほか、理事長賞に26名、天賞31名、地賞63名、人賞126名が選ばれた。



表彰式は、10月17日(土)午前10時30分から、柳川市三橋町垂見の生涯学習会館大ホールで、来賓として福岡県教育庁南筑後教育事務所所長濱武文雄氏と八女教育研究所所長陶山高義氏を招き多くの受賞の児童生徒及び保護者の参加により実施される。作品展示は平成27年10月13日(火)から17日(土)までの間、生涯学習会館ホール及び2階研修室に展示される。その後、優秀作品は財団会館内に飾られることになっているので、希望者は参観していただきたい。

ジュニア美術展の講評

絵画部門

八女市教育研究所所長 陶山高義

今回の美術展における絵画の部審査をさせて頂いた関係で、僥越ですが全体的な講評をさせて頂きます。多くの作品が集まり、その一つ一つから児童生徒の皆さんの楽しそうに描いている様子や思いが伝わってきて、優劣をつけ

るのが大変でした。入賞作品はどれも、上手な絵というより、作者の思い(主題)の強さ・題材や表現の独自性・丁寧さや大胆さ等々が、より強く伝わってくるものが選ばれています。小学校図画工作の表現には、中学生による美術における技法の巧みさより、造形を楽しむための基礎を培う時間としての「子どもらしさ」が現れます。技法優先ではなく、この時期にしか描けないものを追い求めた作品が多く、審査に苦慮したということは素晴らしいことだと思います。本美術展は、広範囲の応募となつています。従つて今後は、地域性を生かした題材(行事や人々の生活・風景)といったものを取り上げられると良いのではないかと思います。お疲れ様でした。

習字部門

県美術協会会員・県展審査委員 下川善道

今年度の習字部門の出品総数は、前年度より341点増の3738点と多くの皆様に応募していただきました。また、夏休みでたくさんさんのコンクール募集がある中で、本展出品にご尽力いただきました各学校や地域指導者の皆様にお礼申し上げます。

今回初めて本展の審査を担当し、どの作品からも最後まで一生懸命に書き上げた努力の跡が感じられました。講評を述べさせていただく機会をいただきましたので、幾つか気がついたことを述べさせていただきます。学校で毛筆書写の授業が始まる小学校3・4年生の学習指導要領の指導事項では



ア 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。
イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を利用して筆圧などに注意して書くこと。
とありますが、審査をして①半紙の中心が作品の中心となっていない。
②作品の字に比べて名前が貧弱。
③「起筆・終筆・転折」等がきちんとなされていない。
等で、惜しくも入賞を逃した作品が数多くありました。時に、名前も作品の字とのバランスを考え、しっかりと書くようご指導ください。以上の点に留意され、次回の皆さんの作品が一層充実されることを期待します。
最後に蛇足として、近年「食育」の重要性が各方面で言われていますが、食事での「はし」の持ち方と書写における「鉛筆や筆」の握り方には関係が大いにあります。正しい持ち方こそが上達の第一歩。小学校低学年のうちから、家庭と学校が一体となつてしっかりと指導をしていきたいものです。